

【フロンティアスクール用中間報告書様式】

都道府県	徳島県
------	-----

・学校の概要（15年4月現在）

学校名	徳島市大松小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	3	2	1	14	20
児童数	54	61	69	60	88	74	3	409	

・研究の概要

1. 研究主題（テーマ）

基礎学力の定着をめざした学習指導の工夫

2. 研究内容と方法

(1)実施学年・教科

1～6年 国語・算数(読み書き計算力)(ドリル学習)	読み書き計算力は教科を支える基礎学力であるとの認識から月～金の朝の学活5回の中で2回を読み書き計算力や読書力向上に当てている
6年 算数(少人数授業)	少人数加配を戴いており習熟度別授業の研究・実施が容易である
6年 国語・理科・体育(教科担任制)	6年理科専科(教頭) 6年担任が国語・体育の専門であり、専門性を出せるため
1～6年 全教科(分かる授業の構築をめざした研究)	分かる授業の構築が児童の基礎学力定着のためのまずは第一歩である

(2)年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 学力向上をめざした学習指導方法の研究 研究の見通し（仮説）</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科を支える基礎学力である読み書き計算力の充実は、各教科の学習理解の土台であると考えられ、学力向上のための条件である読み書き計算力の充実を図ることは大切であると思われる。またその定着のためにドリル学習による積み重ねも重要となる。 学力向上のためには、何より授業を行う教師の学力観が大切で、よりわかる授業に努める努力が涵養である。分かる授業をめざしての教材開発・指導方法の研究などが重要である。 <p>研究内容・方法</p> <p>1 読み書き計算力の定着 読み書き計算力は教科を支える基礎学力であるとの認識のもと、その定着を図る取り組みとして、漢字力(読む能力・書く能力)と計算力(四則演算・分数・小数・百分率・割合等)について朝の学活の時間を用いて読書・漢字・計算の時間を設定する。またその定着を図るためにドリル学習を進める。さらにその習熟状態を知るために前期・後期の2回テストを行う</p>
--------	---

	<p>2 少人数指導 T T 指導の工夫 少人数及び T T 指導の工夫改善により，学力向上のための指導法改善の研究を行う。また，少人数では単元により習熟度別学習を行う</p> <p>3 教科担任制 より「わかる授業を」構築するため，専門性の発揮による教科担任制を実施</p>
--	--

平成 15 年度	<p>テーマ 学力向上をめざした学習指導方法の研究 研究の見通し（仮説）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科を支える基礎学力である読み書き計算力の充実は，各教科の学習理解の土台であると考えられ，学力向上のための条件である読み書き計算力の充実を図ることは大切であると思われる。またその定着のためにドリル学習による積み重ねも重要となる。 また，習熟度別学習の導入により習熟度により基礎を基本に重きを置いたり，習熟度の高い者にはより難易度の高い問題にも対応することによって個に応じた発展的指導ができる。 ・ また学びの機会を充実し，自主的に学ぶ子どもを育てるため保護者と連携し，家庭でのドリル学習を啓発する ・ 学力向上のためには，何より授業を行う教師の学力観が大切で，よりわかる授業に努める努力が涵養である。分かる授業をめざしての教材開発・指導方法の研究などが重要である。 <p>研究内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 読み書き計算力の定着 読み書き計算力は教科を支える基礎学力であるとの認識のもと，その定着を図る取り組みとして，漢字力(読む能力・書く能力)と計算力(四則演算・分数・小数・百分率・割合等)について朝の学活の時間を用いて読書・漢字・計算の時間を設定する。 またその定着を図るためにドリル学習を進める。さらにその習熟状態を知るために前期・後期の2回テストを行う 2 習熟度別学習の研究 基礎基本の習熟はもとより，習熟度の高い者にはより発展的な問題にも対応し個に応じた指導を徹底する。 3 少人数指導 T T 指導の工夫 少人数及び T T 指導の工夫改善により，学力向上のための指導法改善の研究を推進する 4 専科教育 5・6年(国語・算数・社会・理科を予定) より「わかる授業」を構築するため，専門性を発揮できる専科教育を推進しその効果を研究する。 5 公開授業の実施 6 算数科指導の工夫
----------------	--

平成 16 年度	<p>テーマ 学力向上をめざした学習指導方法の推進 研究の見通し（仮説）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科を支える基礎学力である読み書き計算力の充実は，各教科の学習理解の土台であると考えられ，学力向上のための条件である読み書き計算力の充実を図ることは大切であると思われる。またその定着のためにドリル学習による積み重ねも重要となる。以上の実施により理解力・計算力向上が期待できる。 ・ 学力向上のためには，何より授業を行う教師の学力観が大切
----------------	--

で、よりわかる授業に努める努力が涵養である。分かる授業をめざしての教材開発・指導方法の研究により、児童にとってよく分かる授業に一步進むものと考えられる。

また、習熟度別学習の導入により習熟度により基礎を基本に重きを置いたり、習熟度の高い者にはより難易度の高い問題にも対応することによって個に応じた指導ができる。

研究内容・方法

1 読み書き計算力の定着

読み書き計算力は教科を支える基礎学力であるとの認識のもと、その定着を図る取り組みとして、漢字力(読む能力・書く能力)と計算力(四則演算・分数・小数・百分率・割合等)について朝の学活の時間を用いて読書・漢字・計算の時間を設定する。

またその定着を図るためにドリル学習を進める。さらにその習熟状態を知るために前期・後期の2回テストを行う

2 習熟度別学習の研究

基礎基本の習熟はもとより、習熟度の高い者にはより難易度の高い発展的な問題にも対応し個に応じた指導を徹底する。

3 少人数指導TT指導の工夫

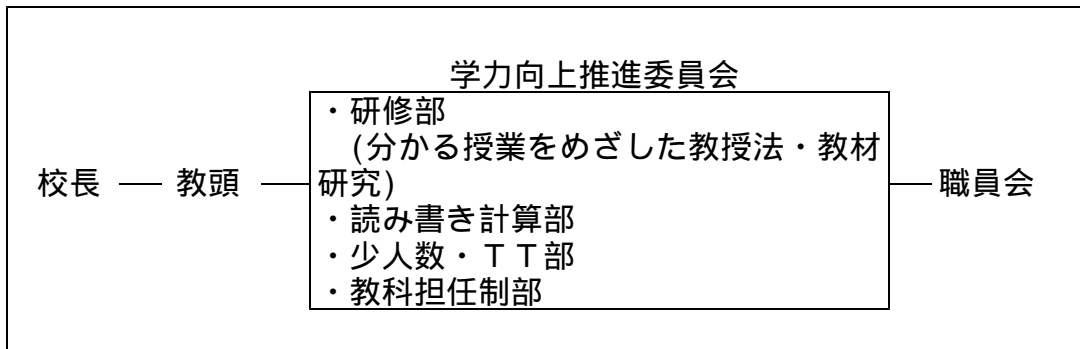
少人数及びTT指導の工夫改善により、学力向上のための指導法改善の研究を行う

4 専科教育

より「わかる授業を」構築するため、専門性を発揮できる専科教育を実施する

5 3年間の成果のまとめ

(3)研究推進体制



・平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

成果

1 読み書き計算力の定着について

学習理解の土台であると考えられる読み書き計算力の向上について、数値的な結果は得られていないが、客観的に読解力・計算力が向上した感触を得ている。

2 教科担任教育について(6の1理科・体育 6の2国語)

児童に聞くと・いろんな先生を知ることができる・苦手な教科が好きになった・進んだ知識も教えてくれて勉強が楽しい・授業の雰囲気違って楽しい等全般的に好評である。

数値的な客観的データについては、6の1理科で10月11日に取ったアンケートを結果を示す

理科の授業は好き?嫌い?

6年になって

5年の時 好き(9人)	好き	9	29%
	ふつう	0	0%
	にがて	0	0%
	6年になって		
5年の時 ふつう(16人)	好き	13	42%
	ふつう	3	10%
	にがて	0	0%
	6年になって		
5年の時 にがて(6人)	好き	3	10%
	ふつう	2	6%
	にがて	1	3%
どういところ楽しいか書いてください(重複回答)			
	・わかり易い	22	71%
	・実験が楽しい	19	52%
	・先生の話が楽しい	8	26%
	・梅ぼしで覚える工夫など覚え方を言ってくれる	3	10%
	・実験はきびしく言われるけど安全にできる	2	6%
	・なんとなく	1	3%

3 少人数指導による習熟度別学習(6年)

単元末の確かめの時間を保護者と児童の希望によるじっくり(基本)及びどんどん(標準)コースに分けての授業を模索した。学年としてじっくり(基本)を1学級・どんどん(標準)を2学級の予定であったが、希望による学級編制はどんどん(標準)1学級・じっくり(基本)2学級であった。各コース別人数及び共通テストの分布は次の通りである。

74(欠席1)

	どんどんコース	じっくりコース	学年計
得点	2学級35人	1学級38人	73
100点	17	2	19
90～99	16	20	36
80～89	2	7	9
70～79		1	1
60～69		5	5
50～59		2	2
40～49		1	1
30～39			
20～29			
10～19			
1～9			

2. 今後の課題

- ・ 学習理解の土台であると考えられる読み書き計算力の向上・定着に

については、朝の学習だけでも効果はあるがまだまだ不十分で、国語・算数の授業の中でも向上・定着のために意図した展開が大切であると考えられ、その方法についての研究を進めたい。

- ・ 教科担任制の試行について、より専門性を発揮することができ、その点ではメリットとして広く児童にも受け入れられているが、結局授業は教師と児童で創りあげていくものであり、専門性の発揮が児童にとって分かり易い授業に必ずしも直結はしないため、わかる楽しい授業の構築のための研究をすすめる必要はある。

・ 学力把握のための学校の取組について

- ・ 基本的な生活能力である「読み書き計算」力の把握のため、毎週水金の朝の会を利用して漢字計算ドリルをし、毎年前期と後期にテストを行っている。
- ・ 平成15・16年：標準学力調査を実施の予定

・ フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- | | | |
|---|----------------------|--|
| 1 | 研究会の実施 | 平成15年2月3日 大松小5年授業研究
少人数学習の習熟度別編成による授業研究の実施 |
| 2 | 説明会の実施 | 平成14年8月5日 南部中
協力体制づくり及び研究会等について協議をした
平成14年2月27日 南部中
今年度の取り組みと次年度の計画について協議をした。 |
| 3 | 新聞紙上での成果の取材(1月31日取材) | 別紙資料参照 |
| 4 | 授業研究会 | 平成15年6月19日(木)14:00～
南部中学校区フロンティア事業指定校(南部中・論田小・渋野小)及び県下のフロンティア事業指定校が参加する授業研究発表会を実施。
2の2(TT)3の1.2(少人数)
5の1(教科担任・TT)
6の1.2(習熟度別少人数) |
| 5 | WEV | 平成14年度及び15年度の研究内容をWEV上に記載。 |
| 6 | 訪問 | 向日市教務主任会学力向上フロンティア事業指定校訪問にて来校。現在までの2カ年の取り組みを報告。 |
| 7 | 地域公開 | 大松小学校区(勝占中部)の全住民に学校開放の一環として授業公開 |

次の項目ごとに、該当する個所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | | |
|----------------------|---|-------------------------------------|----------------------------|--|-----------------------------|
| 【新規校・継続校】 | 15年度からの新規校 | <input checked="" type="checkbox"/> | 14年度からの継続校 | <input checked="" type="checkbox"/> | |
| 【学校規模】 | 6学級以下 | <input type="checkbox"/> | 7～12学級 | <input type="checkbox"/> | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 13～18学級 | <input type="checkbox"/> | 19～24学級 | <input type="checkbox"/> | |
| | 25学級以上 | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> | |
| 【指導体制】 | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導 | <input checked="" type="checkbox"/> | T・Tによる指導 | <input type="checkbox"/> | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 一部教科担任制 | <input type="checkbox"/> | その他 | <input type="checkbox"/> | |
| 【研究教科】 | <input checked="" type="checkbox"/> 国語 | <input type="checkbox"/> | 社会 | <input checked="" type="checkbox"/> 算数 | <input type="checkbox"/> 理科 |
| | <input type="checkbox"/> 生活 | <input type="checkbox"/> | 音楽 | <input type="checkbox"/> 図画工作 | <input type="checkbox"/> 家庭 |
| | <input type="checkbox"/> 体育 | <input type="checkbox"/> | その他 | | |
| | | | | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 | | <input type="checkbox"/> 無 | | |

子供の学力向上を目指す



授業する児童と教師の笑顔が、互いの勉強の意欲を高める。金沢市立東山小学校の教室

小学校への教科担任制

「授業の質を向上させるには、小学校教員に責任を集中させる必要がある」として、教科担任制の導入が検討されている。教科担任制とは、教科ごとに専任の教員が担当する体制のこと。従来の学年担任制では、学年ごとに教員が担当するが、教科ごとに専門的な知識やスキルを持つ教員が担当することで、授業の質を向上させることが期待されている。

得意分野での的確指導

得意分野での的確指導が、子供の学力向上に大きく貢献している。特に、算数や国語などの基礎的な科目において、教員が得意分野での指導を行うことで、子供の理解が深まり、学習意欲も高まっている。また、個別指導や少人数指導など、子供の学習スタイルに合わせた指導も行われている。

「苦手な授業が好きになった」

「苦手な授業が好きになった」という声が多く聞かれるようになった。これは、教員が得意分野での的確指導を行うことで、子供の理解が深まり、学習意欲も高まった結果である。また、授業の形式や教材の工夫など、子供の興味を引く工夫も行われている。

保護者の9割「肯定」

金沢市教委が実施した調査によると、保護者の9割以上が教科担任制を肯定している。これは、保護者が子供の学力向上を重視していることが示されている。また、教科担任制の導入によって、子供の学習意欲が高まり、授業の質も向上していることが確認されている。

教育

10月15日